【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】平成19年9月13日(2007.9.13)

【公開番号】特開2006-117942(P2006-117942A)
【公開日】平成18年5月11日(2006.5.11)
【年通号数】公開・登録公報2006-018
【出願番号】特願2005-305775(P2005-305775)
【国際特許分類】
Ｃ０８Ｌ　57/00　　(2006.01)
Ｇ１１Ｂ　 7/135　 (2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０８Ｌ　57/00
Ｇ１１Ｂ　 7/135　　Ａ

【手続補正書】
【提出日】平成19年7月27日(2007.7.27)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
分子間水素結合を形成できる原子団を高分子の分子側鎖及び／又は分子末端に有する高分子と、分子間水素結合を形成できる原子団を高分子の分子側鎖、分子末端及び／又は分子骨格中に有する高分子とを混合した樹脂組成物であって、
前記分子側鎖及び／又は分子末端に分子間水素結合を形成できる原子団を有する高分子は、分子側鎖及び／又は分子末端にカルボキシル基又は水酸基を有するビニル系重合体及び／又は共重合体である高分子Ａであり、
前記分子側鎖、分子末端及び／又は分子骨格中に分子間水素結合を形成できる原子団を有する高分子は、分子側鎖及び／又は分子末端に少なくとも一つ以上の窒素原子を有するビニル系重合体及び／又は共重合体である高分子Ｂであり、
これらの高分子Ａと高分子Ｂが分子間水素結合を形成しており、かつ、高分子Ａと高分子Ｂのガラス転移温度が異なるものである疑似架橋型樹脂組成物。
【請求項２】
前記高分子Ａと前記高分子Ｂとが溶解している、請求項１記載の疑似架橋型樹脂組成物。
【請求項３】
光学用部品用である、請求項１または２記載の疑似架橋型樹脂組成物。
【請求項４】
疑似架橋型樹脂組成物を用いて、波長４００～８００ｎｍの領域の光の光線透過率が、膜厚５０μｍあたり９０％以上であるフィルムを形成しうる、請求項１～３のいずれか１項記載の疑似架橋型樹脂組成物。
【請求項５】
前記高分子Ａと前記高分子Ｂとを、溶融混練法またはワニスブレンド法により混合してなる、請求項１～４のいずれか１項記載の疑似架橋型樹脂組成物。
【請求項６】
前記高分子Ａのガラス転移温度と、前記高分子Ｂのガラス転移温度のうち、どちらか一方のガラス転移温度は室温以下であり、かつ、もう一方のガラス転移温度は室温以上であ

る請求項１～５のいずれか１項記載の疑似架橋型樹脂組成物。
【請求項７】
一方のガラス転移温度が＋１０℃以下である、請求項１～６のいずれか１項記載の疑似架橋型樹脂組成物。
【請求項８】
もう一方のガラス転移温度が＋５０℃以上である請求項７記載の疑似架橋型樹脂組成物。
【請求項９】
請求項１～８のいずれか一項に記載の疑似架橋型樹脂組成物を成形して得られる成形材。
【請求項１０】
請求項１～８のいずれか一項に記載の疑似架橋型樹脂組成物から得られるフィルム。
【請求項１１】
波長４００～８００ｎｍの領域の光の光線透過率が、膜厚５０μｍあたり９０％以上である請求項１０記載のフィルム。
【請求項１２】
厚さ５０μｍのフィルムについて測定した複屈折率の絶対値が０．８ｎｍ／ｍｍ以下である請求項１１記載のフィルム。
【請求項１３】
請求項１～８のいずれか一項に記載の疑似架橋型樹脂組成物から得られるシート。
【請求項１４】
請求項９～１３のいずれかに記載の成形材、シート又はフィルムを用いた光学用部品。
【請求項１５】
ＣＤ用又はＤＶＤ用である請求項１４記載の光学用部品。